



発行所
安芸郡芸西村
芸西病院
TEL 0887(33)3833

発行責任者
岩村 久
<http://okura-kai.com/geisei/>



新年のごあいさつ

医療法人おくら会

理事長

藤戸良輔



新年あけましておめでとう
ございます。皆さまには健やかに
新年をお迎えのことと心より
お慶び申し上げます。

昨年も新型コロナウイルス
感染症の影響で、様々な行事
が規模縮小・中止となりました。
そんな中、緊急事態宣言
下の様々な困難を乗り越え、
延期されていた東京オリンピック・
パリオリンピックが無事
終了したことが、昨年の最も
大きな出来事と思います。そ
して自国開催のプレッシャー
を乗り越え、わが国はたくさ
んのメダルを獲得しました。
メダル獲得の有無に限らず、

数多くの名シーンも誕生し、
沢山の感動をもらいました。

しかし、長く続く新型コロナ
の脅威はまだ根強く、これ
だけ世界中の国が、これだけ
の規模で、これだけの期間に
わたり困難に見舞われるとい
うことはありませんでした。
8月から猛威を奮っていた第
5波の新規感染者数は11月以
降は減少傾向ですが、

- ・ 手洗いの徹底
- ・ 正しく(すき間なく) マスク着用
- ・ 対人との距離を保つ
- ・ こまめな換気

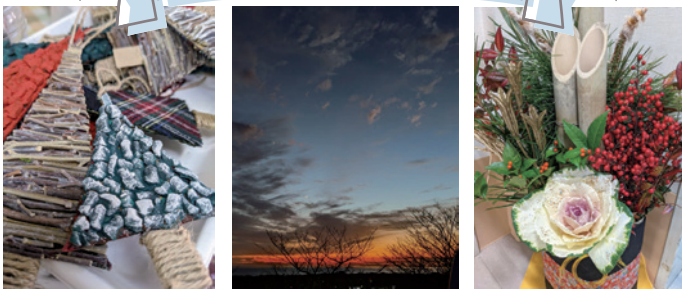
などの感染症対策を継続しま
しょう。

話は変わり、地球温暖化の
影響なのでしょうが、昨年は

自然災害も多くみられまし
た。特に八月の長雨は、熱海
の土石流をはじめ、全国各地
でがけ崩れ等が頻発しまし
た。地球温暖化は、私たちの
生活の様々な点で影響を与え
ます。渇水と洪水のリスクが
いずれも上昇していることが
分かっています。これは、
年々、年降水量が極端に少な
い年と多い年の差が次第に大
きくなっていくためです。気
候変動が進行していく中で、
生活しているひとりひとりの
小さな取り組みが大切です。
気候変動を抑制するために私
たちができることの一例とし
て「レジ袋をもらわない」が
あります。これは大変日々の
生活で苦勞するところではあ
りますが、二酸化炭素発生の
抑制のために重要なことであ
ります。

当院はこれからも患者さん
を大切に、患者さんの立場に
立った医療を提供してまいり
ます。目には見えないだけに
理解されづらいこころの変調
に対し、ご本人にはもちろん
のこと、ご家族にもわかりや
すく説明するように心がけて
まいります。本年もどうぞよ
ろしくお願い申し上げます。

芸西病院『冬』のうつろい



外来診察担当医

令和3年7月1日

内科	月		火		水		木		金		土	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
山崎(第1)	岩崎(第3)	山崎	八木	清藤(第1・3)	山崎	八木	大西(第1)	山崎	山崎	山崎	麻生	休診
	八木(第2・4・5)			八木(第2・4・5)								
大崎	岩村	岩村	藤戸良輔	大崎	廣瀬	清水	廣瀬	清水	廣瀬	清水	廣瀬	休診
											(第1) 廣瀬	(第2) 村上
											(第3) 廣瀬	(第4) 高橋
											(第5) 交代制	

芸西病院

現場栄養士 調理師 調理員 急募

料理に
興味のある方、
未経験者の方も
大歓迎!!



ハロウィンカフェを終えて

精神科作業療法室

作業療法士

井手 あかり

10月29日(金)にハロウィンカフェを開催しました。

今年もコロナで色々なイベントが縮小されたり中止になった分、患者さんの期待も大きかったようで、ハロウィンのイベントを楽しみにしているという言葉を多く伺いました。今回はカフェに絞り、机には園芸クラブでフラワールンジメントした作品を装飾し、飲み物の種類を増やすなど実際のカフェの雰囲気を感じてもらえるよう工夫しました。



カフェの入り口は仮装コーナーになっており、恥ずかしがる方もいましたが、職員も一緒に仮装したことで、皆さん抵抗無く様々な仮装をされてきました。席に着きスタッフに注文を伝えると、お客様



番号が記載された半券を渡されます。番号を呼ばれると、ほとんどのの方が自分の番号に返事されていきました。注文した商品を楽しみに待ち、受け取る際には多くの方が「ありがとう」と感謝の言葉も述べられていきました。今回はカポチャプリンが付いており、患者さんからは「美味しい」「こんなことが出来るなんて、有難い」という言葉が聞かれ「あなたも食べや」という優しい言葉もありました。自ら下膳される方もいて、皆さんの感謝する気持ちや親切心に沢山気がつくことが出来ました。

食べ終わってからも、しばらくは皆さん寛いで過ごされ、インスタ映えのような写真コーナーも設置したため、カフェを楽しんだ後は記念撮影も行われました。

普段、作業療法への参加が少ない方が、いつもとは違うおどけた表情やポーズをして周囲を笑わせ本人も笑顔になる場面もあり、作業療法士として患者さんが楽しめる季節のイベントを計画し、人と人が交流する機会を提供することの大切さを感じました。

今回は設営から誘導、カフェの運営では沢山の方々にサポートしていただきました。終始笑顔にあふれ、患者さんにとっても多くの方が関わって下さるのは嬉しいことであると感じました。秋の味覚を味わいゆったりとした時間を過ごすことで、季節の移ろいを感じられる機会になったのではないかと思います。



秋の味覚を味わう会

精神科作業療法室

作業療法士

田野岡 宏樹

金木犀や秋の匂いがしてくる今日この頃、2B病棟では秋の味覚を味わう会を行いました。皆さんは、秋と言えば何を想像しますか？私は、秋刀魚や焼き芋といった秋の旬の食べ物が真っ先に頭をよぎります。

秋の味覚を味わう会といってもただ食べるだけではありません。協力してくれる患者さんと一緒に和柄の容器に懐紙と栗饅頭を並べてもらう作業を一緒に行いました。準備している最中から「おいしそいうやね」という声が多く聞かれていました。いざ実食!! ゆっくり味わって食べるかた、口いっぱいになるまで勢よく食べるかた様々でした。皆「おいしい」「おいしかった」「もうちょっと食べたい」と感想を述べていました。普段、作業療法の活動に参加が少ない患者さんも参加してくれ「たまには美味しいものも食わんといかんわ」と笑顔で話してくれました。食べ終わった患者さんの元へ、紅葉の景色、秋刀魚の塩焼き、つるし柿などの秋の写真を提示すると患者さん同士で写真

を見ながら話をする場面が見受けられました。季節の行事の良いところは、季節感を味わえること。患者さん同士のコミュニケーションのきっかけ作りだけでなく、病棟スタッフと一緒に患者さんと時間をかけて個別で関わりが持てることだと思っています。

コロナ禍で飲食を伴うプログラムが長期間出来なかった事もあって患者さんの嬉しそうな笑顔を見ると人間にとって食べる喜び、楽しみはとても大事なことでと再認識することが出来ました。今後も感染対策を徹底しながら楽しい季節のイベントを考え、作業療法士として、患者さんのニーズに合った意味のある作業の提供を行っていきます。



精神科デイケア秋の活動報告



新型コロナウイルスの新規感染者数が秋に入って落ち着きを見せ、「鬼の居ぬ間に洗濯」ならぬ「鬼の留守に豆拾い」ではありませんが、今年は様々な活動の中止や縮小等を余儀なくされたため、状況が好転している時に秋の活動を楽しんできました。

「今年のリベンジを果たしに〜紅葉狩りバスツアー〜」
公認心理師 石丸 茂偉

去る11月10日(水)晴天の中、利用者さん同士の親睦と季節感を味わうことを目的にべふ峡まで外出してきました。

実はこの紅葉狩り…デイケアとしてはリベンジマッチのような趣旨もあります。というのも、地球温暖化の影響で年々紅葉の時期が遅れていると言われ、「いざれ紅葉の見頃はクリスマス」の時期になる」との専門家の予測を耳にしたことから、昨年は11月末に紅葉狩りを企画したわけですが、その頃には葉はすっかり散り、最終日の平日ということで観光客も誰も居らず

と、もの哀しい晩秋の寂しい雰囲気だけを味わうことになりました(というわけで203号の病院だよりはこの記事は掲載されていません)。昨年の反省を踏まえ、今年は専門家の言葉も鵜呑みにせず(笑)早めに決行!「早く皆と外食がしたい」…そんな声も多数聞かれましたが、飲食店での会食はもう少し様子見とし、今回は道中の公園に立ち寄りお弁当を昼食にピクニック気分も味わっていただくことにしました。昼食後、一行はべふ峡へと向かい、車から辺り一面見渡す限りの色とりどりの紅葉とついに「対面」現地では「わあ〜きれい」としばしの散策を楽しみました。

「去年は枯れ葉しかなかったけど、今年は見頃できれいな紅葉が見れて良かった」「コロナ禍とは思えんくらい皆、楽しそうにはしゃいでいたのが手に取るように分かった」との感想を聞くことができ、本来の目的を今年は果たせて何よりでした。一方で、「欲を言えば外食したかった」「きれいな景色を見たついでに何



今年は駐車場も賑わいを見せていました

「鬼」が戻って来ないことをただただ願い、この記事が掲載される頃も季節の様々な行事と共に、今度は利用者さんの胃袋も満たす活動も企画できたらと思います。

「デイケア 今年もやりました!」
第25回スピリットアート展
看護師 志磨村 透江

今年も昨年に続き立体作品の部で入選できました。今年

の作品は廃材を再利用しマンダラ模様風の貼り絵をみんなで作りました。材料はハギレ、ペットボトル、トイレトーパーの芯、CDディスク等本来の役目を終えた物たちを別の形で生まれ変わらせました。その為、タイトルは「生まれ変わる〜廃材万華鏡〜」です。マンダラ模様も自分達で円や線を描きました。それぞれの廃材を一つ一つポンドで張り付けており、搬入当日まで作業しました。私達は日々この資源を利用して生活しており、この当たり前にある大切な資源に感謝しなければいけない、今世界中で起きている環境汚染やエネルギー問題等を考える入り口として



持参したデジカメラやスマホを手にカメラマンとなる方も多くいました



現在リハビリテーション棟入り口にて展示させてもらっています



「未来の医療福祉と医療福祉人のあたり前を考える」 — 川崎医療福祉大学創立30周年記念シンポジウムに登壇して —

放射線室長
診療放射線技師

廣地 祿代



「命の手当て—未来に向かう医療福祉人として思うこと—」(抜粋)

今やAIは仮面ライダーにまで登場し子供たちの世界にも浸透している。ならばと小学5年の息子に「20年、30年後の医療福祉はどうなっていると思う？」と問うてみた。

「体にチップを埋めて、それが一生、体の変化を教えてくれる。」昼に熱が出るから早く病院へとか、がんが出来ていきます。ってチップが教えてくれるから早く判って治せるとそんな風になると思っているとペット用マイクロチップと

AI家電、スマートウォッチが一緒になったような答えが返ってきた。
「でもロボットの医者さんは嫌。冷たい感じがするき優しい人間のお医者さんに診てもらいたい」今も未来もそこは当たり前だと言いたげに息子は口を尖らせた。

もう10年前になるが、私はそんな「優しい人間のお医者さん」に救われたことがある。父を急性心筋梗塞による突然死で亡くした。父の検査は私が行い、主治医と話し合ってフォローしていた。しかしあの暑い夏の朝、父は庭で倒れるまま旅立った。

もう検査できる状況ですらなかった。救急のベッドには滴る汗を拭わず必死に心臓マッサージを続ける医師、モニターには手を止めれば消えると解る波形が映る。父は穴の開いた紙袋のようで、その穴はもう人の手では繕えぬ大きな綻びのように思えた。汗だくの医師に心臓マッサージを止めて下さいと告げ、父の命に私が終止符を打った。

その後、育児休暇から復帰し同時に引き継いだ技師長職の重責。目まぐるしい日常の中で、次第に私の歯車はおかしくなっていた。父と似た症例の患者さんに関わると何かの拍子にマスクの下で涙が止まらなくなる。「もう死んでもかまんき」とベッドでふてくされる患者さんに声をかけながらも、「まだ生きるか死ぬかの選択が自分でできるくせに、父はその選択すら出来なかった」とぶつけるわけにはいかない苛立ちがこみ上げ、同時にそんな自分への自己嫌悪に陥る。無事に再開通した血管がモニターに映し出されるのを見れば「なぜこれが父ではないのか」と何度も思った。目を閉じれば浮かぶ父の最期の顔、しかしあの時の父の命への幕引きは、娘としての覚悟ではなく、医療従事者としてその場の空気を読んだ冷たい判断ではなかったか……。思い惑う、こんな自分が技師として患者さんに関わる申し訳なき、恐怖すら感じるようになってきていた。

そんなことを、職場に来ら

れていた高知大学医学部附属病院、心臓血管外科の教授に打ち明けた。私の話を聴いていた教授は、やがて静かに話し始めた。

「神様から与えられた命の長さは、最初からほぼ決まっているのではないかと思えます。でも僕は患者さんと一生懸命になる。じゃちよつと延ばそうかって神様がおまけをつけてくれる。僕らが命を救うのではなく、僕は、命を延ばすお手伝いを、させてもらっているんです」

驚く私に、「同じ様に、娘であり技師であるあなたが目を配っていなければ、お父さんの命は神様に定められた予定通りの長さだった。最期の時、あなたはお父さんの命を縮めたのではない。それまでを可能な限り引き伸ばしたのです。大丈夫。今の弱った心が元氣になれば、お父さんの命に感じたと同じ重みを患者さんに感じ、その命に寄り添うことが出来ると思います。あなた達が作る画像は患者さんの過去から今、そして未来の時間を描き出す。あなたはそれが良く解る画像で、僕を助けてくれる技師のはずです」。



去る11月6日(土)、川崎医療福祉大学の創立30周年記念シンポジウム「未来の『医療福祉』と『医療福祉人』のあたり前を考える」にシンポジストとして登壇させていだきました。2万人を超える卒業生の中で私に白羽の矢が立ったのは、シンポジウムと同じテーマを掲げた大学主催のエッセイコンテストにて最優秀賞を頂いたことからでした。大きな会場で45名の聴衆を前にしての発表は初めての経験でしたが、エッセイの内容も含めながら、かつ撮影室で行なうことがある手話での聴覚障害者への対応の様子など、診療放射線技師として25年間過ごした経験や思うことをお話しして参りました。

その時の私は自分の心の、命の手当てを求める患者だった。教授はそれを見抜き、静かな傾聴は私を励まし言葉一つ一つで今を肯定してくれた。娘であり技師だったから、その言葉に大きな励ましを得た。教授は私の心に手を当て、悲しみや痛みを持ちながらでもまた診療放射線技師として立ち上がれと、私の今後にまでそつと手を添えすくいあげてくれた。

医療福祉人が患者さんの哀苦に寄り添う事は患者さんそのものを救い、その後をも支えるのだと思う。再び歩きだせた感謝を、今後は少しでも患者さんに還元したいと今も大事に心に留めている。

未来の医療福祉のあたり前。医療技術は益々進化するだろう。しかし医療福祉の現場にはデータや前例だけでは推し量れないリアルで唯一な患者さんの苦しみがある。どんなに技術が進んでも、変わらないのは患者さんは心を持つ人であり、ただの病気の入った入れ物ではないということだ。新しいテクノロジーを右腕に携え、医療福祉人たる我々は日々技術を磨いて患者さんに関わる。同時に患者さ

んの心にも手を当て寄り添う。それが一人ひとりの命を延ばし、支えることになるのだと思う。

医療福祉人であり続けるうち、訪れる未来の様々な切磋琢磨し、「命の手当て」に関われる診療放射線技師として、一歩ずつ前に進んでいきたいと思うのである。

(川崎医療福祉大学発行「未来の医療福祉のあたり前を考える」論文・エッセイ・作品集)

日常の中で必死に動きつても、心に重くのしかかる悲しみで「手負いの獣」感が拭いきれずにいた頃、前職の前田技師に「当院で廣地さんらしく、自分を大事にしながら働いてみませんか」とお声がけ頂き、早いものでもう5年になります。

「これからはママ、夜、お家にずっといるのー」と、娘が満面の笑みで園長室に駆け込んできたと幼稚園で伺い、仕事に没頭するあまり我が子にどれほど淋しい思いをさせていたか、自分の苦しみや痛みにはかり目が向いていたことに初めて気づく、そんなふがいない母でした。

以前とは随分ペースの違う毎日。しかし当院で勤務し、

職員、患者さんへの関わりかたを見ているうちに、私は「その人の傍らで待つ」ことの大事さに気づきました。手を添え静かに待つこともまた患者さんの苦しみを拭う方法のひとつだと。治療に必死になることは大事ですが、目先への必死さや治療者の思いばかりで先走ってしまうと、それは患者さんにとっての最善にはならない場合もある、ということも教わりました。

命にはその人のもつ流れがある。その流れを止めたり減ませることの無いよう、医師の診断、治療に必要な確かな画像を撮り、当院にいらっしゃる患者さんに寄り添いながら日々仕事をしたいと思っています。



リリースエッセイ No.68
「我が家のユーチューブ・アイドル」

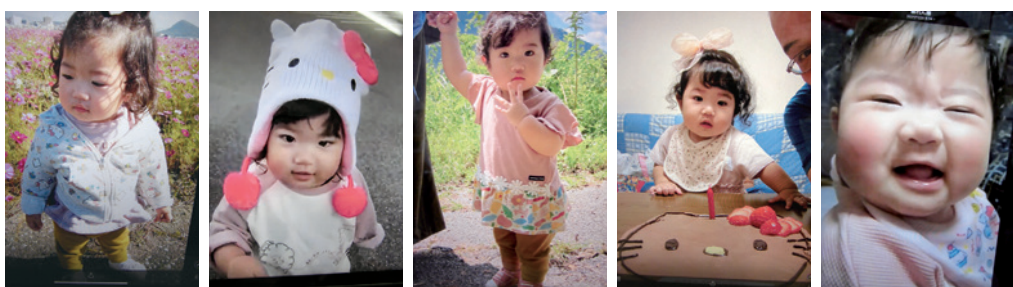
A病棟 看護師 葛川 雄司

今回は我が家の可愛いユーチューブアイドルの孫の話をしたいと思います。

令和二年の七月生まれ、名前は叶望と書いて「かのん」と言い、両親とばあばあ、じいじの愛情をいっぱい受けています。大好きなキティグッズに囲まれ、一歳の誕生日会ではキティのケーキを眺めて楽しみました。私の買ったキティの帽子を被り、また同じマンションの階で住んでいるため、ほぼ毎日のように自分達の所に来て、お風呂に入ったりして過ごしています。

何故、ユーチューブアイドルかと言うと、コロナのために何処にも遊びに行けないので、それならと考えてユーチューブチャンネルを作成し動画や写真を撮って定期的に投稿しています。視聴回数は微増ですが、じいじい一人だけ勝手に喜んで、親バカではありませんが、じいじいバカになっていきます。

やっとコロナも落ち着いてきたので、終息を祈りながら、今後は外出泊の動画や画像を投稿し、我が家のユーチューブアイドルの成長を見守っていきたいと思います。



可愛い叶望ちゃんのYouTubeはこちら♡

やわらぎ通信

リゾートビルやわらぎ
運営理念

その人らしさを尊重し
人と人とのつながりを大切に
明日につなげるケアをめざす

「謹賀新年」

施設長 中本 雅彦

旧年中は大変お世話になり、誠にありがとうございました。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

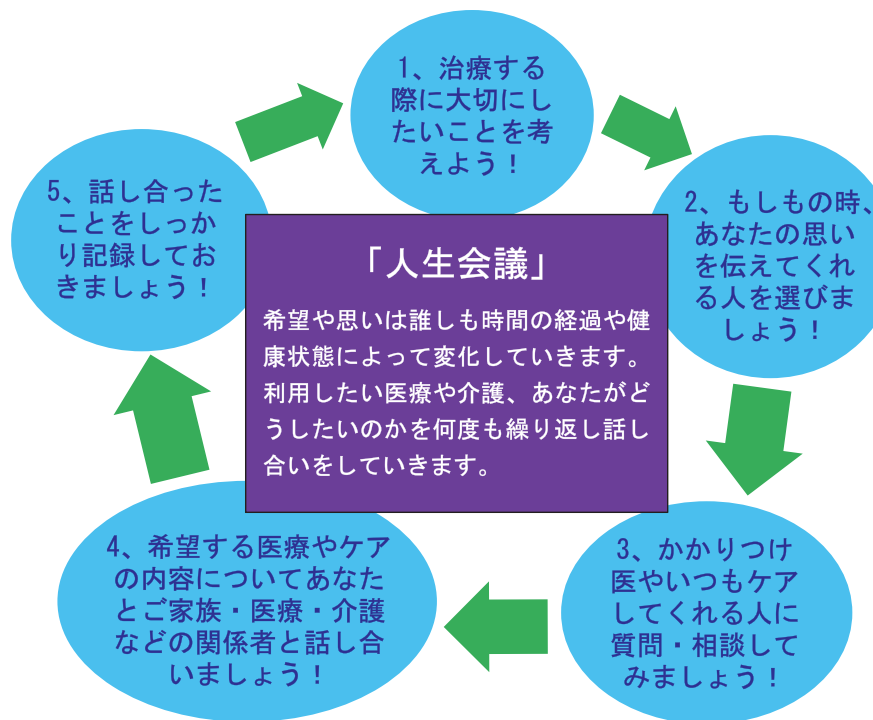
さて、新年早々ご利用者・ご家族・関係機関の皆様と共有したいことが1つあります。「人生会議」という言葉をご存じでしょうか？ 昨年11月14日(日)、第五十三回高知県リハビリテーション研究会が開催されました。感染対策の大事をとってインターネットによるリモートを主に開催されましたが、活動発表をする地域(県内4カ所)にはサテライト会場が設けられ、当施設は芸西・安芸地区の方々が集まり参加しました。東京大学の会田さんの講演「ACP(人生会議) 人生の最終段階における医療・ケアの意思決定支援」、また県内の様々な活動や行政報告を共有しこれからの高知家における人生会議の在り方、その必要性・可能性・有効性について意見交換をしました。「老若男女・健康な人も疾病を持つ人もいずれば人生の命の最期を迎えます。ご自身の将来について考えたことはありますか？」人生の最期まで自分らしく生きるための医療や介護などについて、身近なご家族や友人・知人、かかりつけ医師や看護師、介護士、ケアマネジャー、ソーシャルワーカー等、あなたが信頼する人と話し合いを繰り返し行っていくことを「人生会議」といいます。一昨年からこのコロナ禍にて暮らし・人生・命が突然脅かされることを日常的に耳にすることが多くなりました。「人生会議」は「尊厳」を自分自身と身近な人でくり返し明らかにしていく協同作業といえるのではないのでしょうか。

高知家は全国に先駆けて超高齢のご長寿県となりました。「人生

会議」は最後まで自分の意思が尊重され命を輝かせることができ、自分らしく生きることを実現させる具体的な方法の一つであると思えます。

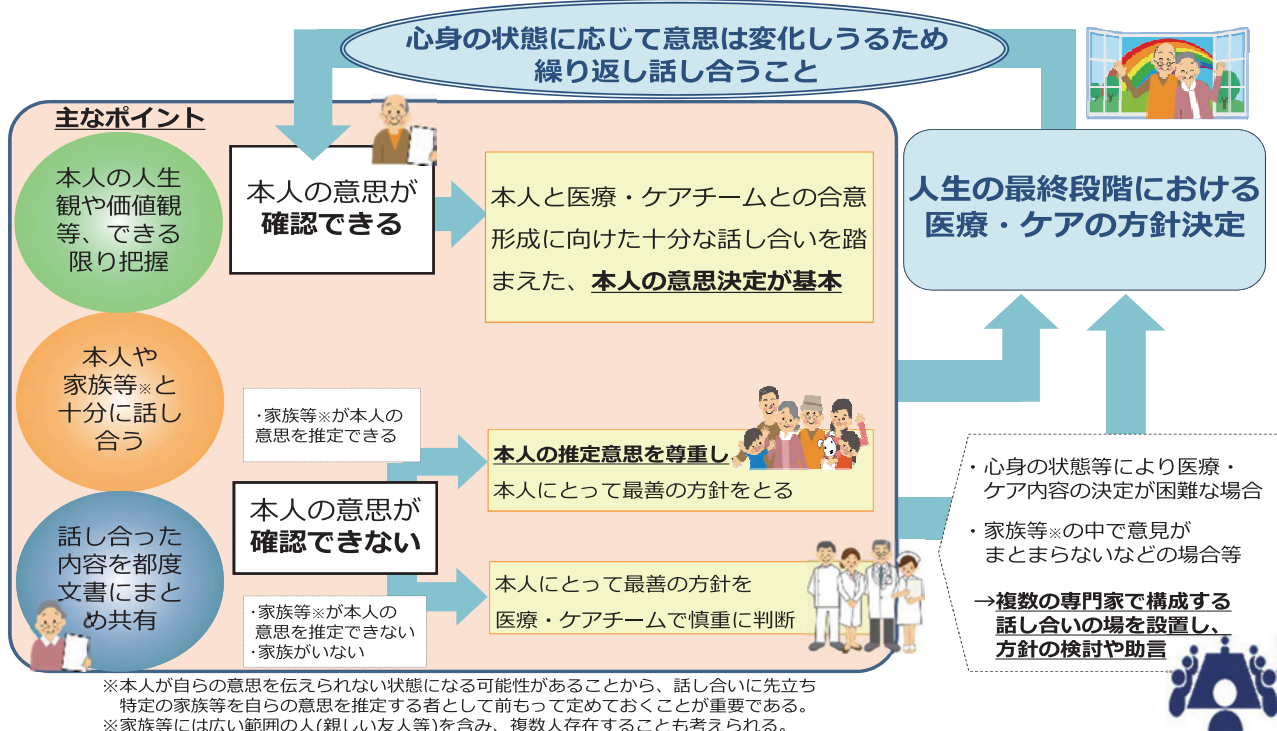
これをお読みいただいたあなた、まずは身近なご家族にご自身の将来像についてご相談いただき、そしてあなたにとって大切な人の将来像も話し合ってみませんか。

命の危機が迫った状態で約7割の人が自分の医療やケアを自分で決める希望を人に伝えたりすることができなくなるとわれています。



「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」における意思決定支援や方針決定の流れ（イメージ図）（平成30年版）

人生の最終段階における医療・ケアについては、医師等の医療従事者から本人・家族等へ適切な情報の提供と説明がなされた上で、介護従事者を含む多専門職種からなる医療・ケアチームと十分な話し合いを行い、本人の意思決定を基本として進めること。



「新たな食事サービスのはじまり」

当法人の食事サービスの提供スタイルが一新されました。やわらぎの3度のお食事とおやつにつきまして、仕入れから準備、運搬、食器洗浄に至るまで、平成10年1月にやわらぎ開設以来すべてを芸西病院の給食厨房にて行っていました。ところが12月1日よりご縁あつて(株)ナリコマエンタープライズ(本社・大阪)さんにお世話になることとなりました。ナリコマさんは医療機関や介護施設への介護食サービス提供では全国的にも著名な企業で、高知県内の病院・介護施設では20機関以上が導入しているそうです。11月下旬には営業担当の2名の方が施設へ来所され通所ご利用の皆様へ会社の特徴から食事内容について説明していただきました。参加者からの質問に対して懇切丁寧にお答え頂きました。私自身、食事はすべての人の楽しみであると考えています。料理を前にその盛り付け姿と香を歯ごたえ食感を味を安全な喉ごしを楽しみ、食べた後は仲間と共感する。やわらぎはそんな食事を目指しています。今回の食事サービス変更後のご感想など、忌憚のないご意見をお聞かせください。皆様の食に関するお声を大切に、一つ一つ検討し食の質の向上に努めて参ります。

令和3年度「芸西村認知症講演会」

とき・令和3年11月10日(水)午後2時
ところ・村民会館にて

毎年恒例行事となりました認知症講演会、今年は村民の方々を中心に30名を超えるの方々が集って「認知症の方への接し方」と題して開催しました。

講師は当施設療養棟師長の山崎看護師長が務め、認知症とはどういうことか?認知症の方の特徴(個性)から日常生活面での接し方、また一般的には困りごとといわれる様々な症状に対しての介護のコツなどについて、日頃の現場での具体例を交えながら丁寧なお話がありました。ご参加いただきました皆様有難うございました。



令和4年1月12日には「排泄ケア」、2月16日には「栄養ケア」について「楽々介護教室」を開催いたします。乞うご期待下さい。



10月31日 1階ハロウィン秋祭り



10月17日 2階秋祭り

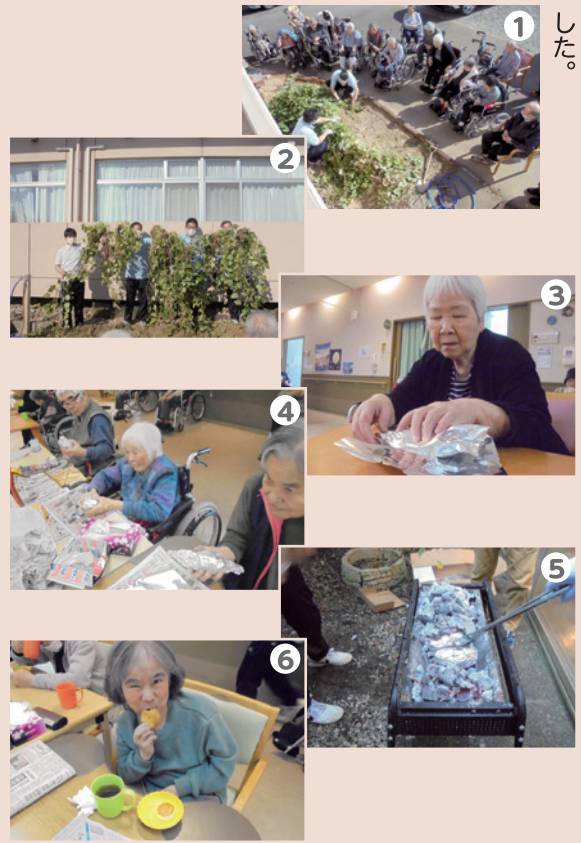


11月3日 食欲の秋

〜芋を取ったよ!芋を食べたよ!〜

介護福祉士 和食 亨

夏に植えた芋をついに収穫する日がやってきました。畑いっぱい広がった芋のつるに無事に芋が出来ているか、期待半分、不安半分で掘りおこしていきました。すると大小色々な芋がゴロゴロ出てきて、ご利用者の皆様からは「芋や!芋や!」「大きいねえ」「小さいのかわいらしいねえ」などたくさんさんの喜びの声と笑顔が広がりました。収穫した芋は、焼き芋や茶巾絞りにして、みんなで美味しくいただきました。



9月13日 通所リハビリ敬老会



釣りクラブに同行して



高知福祉専門学校社会福祉学科相談援助実習生の川畑浩生です。

11月5日(金)の釣りクラブに同行させていただきました。ご利用者の皆様は、釣り場に着くなりものも言わずに竿を垂らされていました。冷たい風の吹く中しばらく待ちますが魚の気配はありません。そこで職員が海面に餌を撒きはじめたところ、さらに光る魚の群れの影がこちらに向かってくるのを見つけました。するとご利用者の「浮き」が小刻みに動きはじめ、タイミングよく竿を上げた疑餌針には4〜5匹のイワシがかかっていました!「これはアツい」と一同注目の中、別の「浮き」からも次から次へと反応が始め、次第に場の雰囲気も熱くなりました。

今回は釣りクラブが始まって以来の大漁となり、なんとイワシが約50匹!どの顔も生き生きとされています。参加されたご利用者の皆様も職員も大手を振っての帰所となりました。

この経験を言葉にすると「楽しかった」の一言です。レクリエーションには、その人らしい生活を送り、生きがいを持って生活の質を向上させるといった目的があるそうです。今後も「真剣な眼差し」そして「楽しい」を感じられる活動に期待大です。



「お米の贈呈式」

芸西幼稚園 そら組
芸西小学校五年生
芸西中学校一年生
の育ててくれたお米が
今年もやわらぎに届きました。
ありがとうございました。



「南海地震を想定してのBCP・福祉避難所シミュレーション訓練」

施設長 中本 雅彦

令和3年11月7日(日)、各部署の代表者11名が集い、3時間の長丁場となるHUGを用いた大規模災害シミュレーション訓練を行いました。

「HUG」とは静岡県が開発した避難所運営カードゲームの事です。今回はHUGをベースに、発災初動からBCP・福祉避難所運営を想定して取り組みました。

研修会当日の早朝5時11分、室戸岬沖にてマグニチュード8.0の大地震が発生、静岡から鹿児島までの太平洋側の広範囲において震度7の揺れに襲われる!終始緊張した空気の南海地震の被災当事者として全員が真剣に向き合いました。人数も職種も限られた状態にて矢継ぎ早の多種多様な出来事に対してみんなで知恵を出し合いながら、ただただ対応することに追われました。具体的には、入所利用者へケアする者、玄関口にて受付トリアーシ役、在宅職員や関係機関への連絡係、現状把握情報集約ホワイトボードへの記録係、同じくボードを用いた広く皆様宛の情報提供係、受付を通過した地域避難者の部屋割り・一時避難スペースの確保係等々。

地震が発生しますと、入所者と職員そして併設機関の患者さんや職員など混乱することが予測されます。また当施設の近隣地域にて生活されている多くの方々が避難してくることも推察されます。その中には高齢や障がいなどで生活支援や介護の必要な方から未就学児童や乳幼児など多様な方がおられることでしょうか。

万が一の際に、私たちは冷静に、優先順位に基づいて必要な行動がとれるよう日頃からの備え・訓練がいかに大切であるかを実感しました。

今後は部署長のみならずチームやわらぎ全体にてこうした訓練を繰り返し取り組み、災害に対する意識向上を図り、気づき得た課題に対し人・もの・情報への備えを具体的に実行していきます。関係機関や地域の皆様のご理解・ご協力も何卒よろしくお願いたします。



無我夢中 35

事務主任 山脇 園

1998年1月15日リゾートヒルやわらぎが開設され、早くも25年目に突入しようとしています。開設前年の11月に入職しやわらぎ準備室に配属された私は、やわらぎよりほんの少し先輩になります。以後3年に1回の介護報酬改正で振り落とされないようしがみつぎながら、無我夢中でやわらぎの窓口に住居してきました。

介護事務業務の中で私にとっては、大きな3回の山場がありました。1回目は入職当初の訳も分からないまま仕上げた初めての保険請求、2回目は2年後に始まった介護保険制度による最初の保険請求、3回目は今年度の改正で始まったライフでの厚生労働省へのデータ提出を伴う保険請求です。眉間に深い深い深谷をつくり、Q&Aや解釈本を読み込み、パソコンと格闘しながら、正しく保険請求ができていますか？入金はあるか？など目が覚めたら髪が真っ白になっていそうな思いでした。そんな山場を乗り越えて（ライフはまだですが…）なんとか今まで頑張ってきたのは、施設長をはじめとする周りのスタッフの皆さんとの関わりやご利用者からの暖かい声でした。

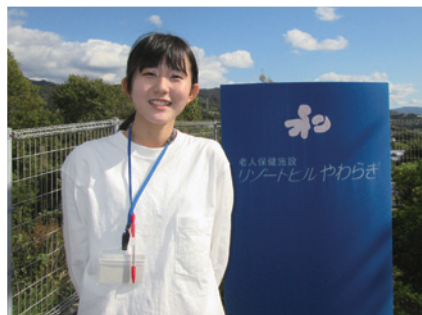
「業務の中心にいるのは誰？」という言葉をよく施設長から投げかけられます。私たち事務スタッフは、先の問いかけに「ご利用者です。」と胸をはって応えるために、挨拶、話しやすい雰囲気をつくること、正しい介護事務業務を行うことはもちろん、直接ケアに関わっていない部署ゆえにできることは何か？を常に考えながら、日々の業務に真摯に勤しむことが大事だと思っています。



1999年3月13日に裏表一枚刷りで第1号のやわらぎ通信が発行され、この第96号まで編集委員としてかかわっ

てきました。現在私たち編集委員の目標は、面会に制限を設けさせていたでいており、自由に会うことが難しいコロナ禍において、紙面に多くのご利用者の元気な笑顔を掲載し、ご家族の皆様様に安心していただくことです。やわらぎ全スタッフは、制限のある中で工夫を重ね様々な行事を行っています。通信を楽しみに待ってくださるご利用者やご家族の皆様様に自然と笑みが溢れるような記事をお届けしたいと頑張っています。

では、ここで11月に入職した窓口の新しい顔、市川紗矢佳さんをご紹介します。いただきます。彼女は今、介護報酬を主軸とする介護事務の業務を無我夢中で覚えているところです。持前の明るさと人懐っこい笑顔で、ご利用者の皆様に人気急上昇中です。毎日やわらぎの窓口で頑張っていますので、皆様どうぞお気軽にお声をかけて、元気をわけてもらってください。



市川紗矢佳さん

リクライニング車椅子 入荷しました



ガラス越面会用ベンチを設置しました

